

# こどもの聞こえについて

音や話し声を十分に聞き取れないことを難聴といい、こどもの両耳の難聴は約1000人に1人の割合で見つかります。難聴を早期に発見することで、ことばの発達や人とのコミュニケーション等への影響を少なくすることができます。



## ●難聴の発見が遅れると、どんな影響がある??

### ことばの発達への影響

- ◆ことばは、周りの人のことばをまねすることで覚えていきます。聞こえにくいと、ことばを覚えにくくなります。
- ◆ことばがはっきり聞こえないので、物の名前を誤って覚えることがあります。
- ◆聞こえにくいと、発音も不明瞭になりやすくなります。

### 学習への影響

- ◆学校の授業の内容や、先生の指示が聞き取りにくく、流れがつかみにくいです。
- ◆たくさんの方が話すようなグループワーク等の場面では、より聞き取りにくく、活動に参加するのが難しくなります。

### 心の健康・社会性への影響

- ◆集団に入れないが増えていくと、周りの人とコミュニケーションをとることに消極的になることがあります。
- ◆「聞いていない」と誤解されて、注意を受けることが続くと、自尊心の低下につながることがあります。
- ◆「分からないのは自分のせいだ」と、自分を責めてしまう子どももいます。
- ◆分からないことが日常的になり、自信をもって行動できなくなることがあります。

## ●こどもの聞こえを月齢ごとにチェックしてみましょう!

### 生後2か月頃まで

- 突然の音にビクッとする
- 眠っていて突然の音に目を覚ますか、または泣き出す
- 話しかけると、「アー」や「ウー」と声を出して喜ぶ

### 生後3~6か月頃まで

- 人の声（特に聞き慣れた家族の声）に振り向く
- 突然の音にびっくりして、しがみつくと、泣き出す様子が見られる

### 生後7~9か月頃まで

- 「だめだよ」等と注意をされると、手を引っ込める、泣き出す
- 大人が動物の鳴き声をまねる、音楽や歌をうたうと手足を動かして、喜ぶ

### 生後10~12か月頃まで

- 「〇〇ちょうだい」と言うと、その物を渡す
- 「〇〇どこ?」と聞くと、そちらを見る

### 生後1歳6か月頃まで

- 見えないところからの呼びかけやテレビから流れてくるコマーシャルの音楽、番組のテーマ音楽に振り向く
- 人のささやき声（ないしょ話をする時の声の大きさ）で、名前を呼んだときに振り向く

### 3歳児以降

- 1メートルほど離れて向かい合って座り、絵シートにある絵の名前を、ささやき声で言った時に、正しく答えることができる
- ※3歳児健診の通知にチェックできるシートが同封されます。

## ご協力をお願いします!!

### 呉地域の医療を守るために、わたしたちにできること

現在、呉地域は医師不足・看護師不足により、救急医療体制の維持が難しくなっています。

- ❖ こどもの普段の健康状態を知っている「**かかりつけ医**」をもつことで、病気の早期発見と治療につながります。
- ❖ 専門の医師による診察と治療を受けるために、**通常の診療時間内に受診**をしましょう。
- ❖ 緊急性がない場合は、**自家用車や交通機関等**を利用しましょう。



難聴を見逃さないためには、どうしたらいいですか?

コミュニケーションのとりにくさやことばの遅れは、「聞こえにくさ」が影響している可能性があります。心配があれば、自宅でできる難聴の検査（下のQRコード）をし、必要であれば、耳鼻科を受診しましょう。また、中耳炎を繰り返すことで、聞こえにくい状態が続くことがあるため、定期的に聞こえの確認をしましょう。

『ささやき声検査』のYouTube動画が視聴できます。



**「聞こえ」を意識して、こどもの様子を観察し、気になることがあれば、かかりつけ医や耳鼻科に相談することをおすすめします!**

くれ子育てねっと ほけんだより  
<https://kure-kosodate.com/service/829.html>

